

## 鳥羽はあなたに恋しています。

ここをときめかせるものは、何気ないところに潜んでいます。  
ゆっくり、たっぷりと時間をかけてめぐることで、  
思いがけないものに出逢ったりするものです。  
もう1歩、もう1本奥まった道へ踏み込んでいくと、  
まだ見ぬときめきが待っているかもしません。  
うつくしい海、独自の暮らしぶりを今にのこす離島、  
受け継がれる海女文化。鳥羽には日本のうつくしい嘗みが  
そこがしこに息づいています。  
ゆったりとここちよい鳥羽の出で湯。  
旅を深くうたがにしてくれる海の幸、山の幸。  
自然の恵みもたっぷり…。  
あなたはどんな鳥羽をすきになってくれるでしょうか。  
想像しただけですこしドキドキ。  
あなたに喜んでもらいたい。しあわせな気分になってもらいたい。  
鳥羽はあなたに恋しています。

## 恋する鳥羽



## 鳥羽には…神様に愛された豊饒の海があります。

**約** 2000年前、天照大神は、海の幸に恵まれ、美しい白波が寄せる伊勢志摩を「可伶国」と称え、伊勢に鎮座されました。これが伊勢神宮のはじまりです。

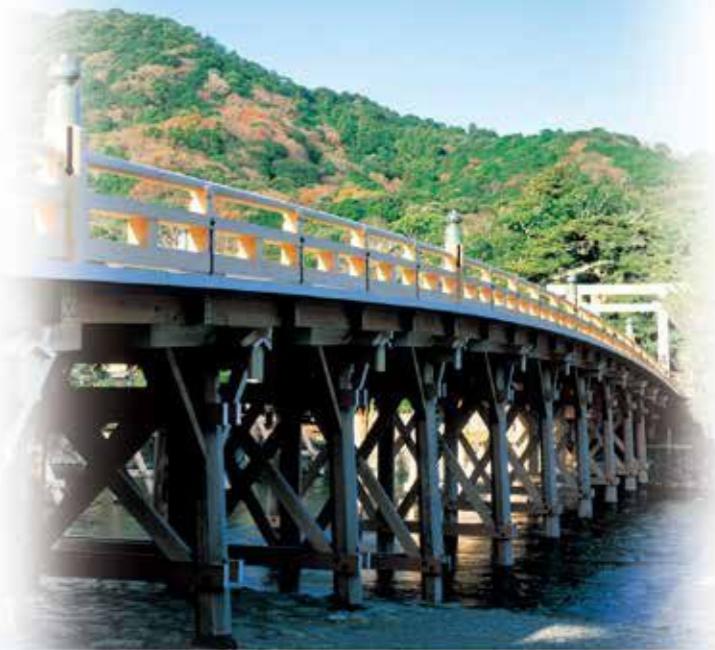
天照大神をご案内した皇女・倭姫命が、鳥羽の国崎を訪れたとき、地元の海女が差し出した鮑のおいしさに感動し、天照大神に毎年献上するよう命じられました。

以来、国崎は伊勢神宮の神饌(神様に捧げる供物)を調進する御贋處になりました。鮑は神饌の中でも特に重要とされており、それは、昔も今も国崎で獲れたものなのです。

神様に愛された海の幸は古代の天皇をも魅了しました。伊勢志摩は朝廷に魚介類などを納める「御食国」のひとつ。万葉集には、「御食国 志摩の海人ならし 真熊野の 小船に乗りて 沖へ漕ぐ見ゆ(第六卷)」や、鳥羽の離島・答志島を舞台に詠んだ「釣着く 手節(答志)の崎に 今日もかも 大宮人の 玉藻刈るらむ(第一巻)」などの歌が残されています。

神話の時代から、人々の命をはぐくんできた鳥羽の海。

その海は遙か昔と変わることなく、今日も、私たちに豊かな恵みをもたらしてくれます。



### 日本の祝い魚

古来、神饌として伊勢神宮に献納される鮑をはじめ、長寿の縁起物である伊勢えびや「めでたい」につながる鯛は、お祝いの席には欠かせない海の幸。そこで、鳥羽ではこの三種を「日本の祝い魚」と名付けました。鳥羽の豊饒の海で育った鮑、伊勢えび、鯛は絶品です。伊勢神宮のお膝元・鳥羽で獲れた新鮮な「日本の祝い魚」をお楽しみください。

